資料２

第三期中期目標期間における業務実績見込に関する評価結果（案）

１　法人の自己点検・自己評価がⅣ（上回って実施している）の項目

○「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目※（１～４５）

※「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

［愛知県立大学］

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
１　教養教育においては、学部４年間を通して学ぶ新カリキュラムを構築するとともに、不測の事態にも対応できる価値創造的な人間力を基礎に、世界的な視野から愛知県の特質を踏まえ、グローバル社会で活躍できる人材や、多文化共生社会、ものづくり社会の牽引・発展などに貢献できる人材を育成するため、自治体や企業・地域等からの外部人材の活用や、多様な専門分野を持つ本学の強みを生かした５学部連携教育を推進する。【重点的計画】 ＜指標＞ 全学生対象の教養教育科目群「県大世界あいち学（仮称）」（＊）を 2021 年度に新たに設置し、全学部連携型授業を１科目、複数学部連携型授業を４科目開講する。 （＊）県大世界あいち学（仮称）とは、グローバル化が進む実社会で役立つ真の教養を身につけるため、愛知県の地域的特性であるものづくり産業の集積や喫緊の課題である多文化共生等を主眼に、外国籍住民と	Ⅳ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	【2019～2022 年度の実績】 ・新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」を 2021 年度に新たに設置し、2022 年度までに全学部連携型の APU 教養コア科目（2 科目）・APU 教養特別科目（1 科目）及び複数学部連携型の APU 教養連携科目（3 科目）等の、5 学部連携や自治体・産業界との連携による教育を実施した。 ・新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」については、三菱みらい育成財団から、少人数によるアクティブラーニングを行うプログラムであることに加え、1 年次必修とした「多文化社会への招待」と「データサイエンスへの招待」が高く評価され、「21 世紀型教養教育プログラム」に採択され、3 年間の助成金を獲得した。（2021～2023 年度） ・「多文化社会への招待」 教養教育科目の４つの科目群で取り扱う内容に関する講義を手がかりに、各学部の特性と共生をテーマとしたグループディスカッションにより、目的意識の探究と主体的な学びの基本姿勢を身につける。 ・「データサイエンスへの招待」 データサイエンスでできることを理解するとともに、現在と今後の情報社会に生きる者として必要なデータに基づく考え方を習得する。 ・「県大エッセンシャル」 劇作家・演出家を講師とした、コミュニケーションや他者理解を学ぶワークショップの実施や、連合愛知による寄附講座として、愛知県副知事や連合愛知会長、元外交官等、様々な企業・団体関係者を講師とした講義を実施した。 ・新教養教育カリキュラムにおける「いのちと防災の科学」、「インターンシップ実践」、「キャリア実践」において、県内各種団体（自治体・企業等）と連携した授業科目を開講した。	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 **・新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」を 2021 年度に設置、2022 年度までに「多文化社会への招待」や「データサイエンスへの招待」などの全学部連携型の授業の開設**など、5 学部連携や自治体・産業界との連携による教育を実施した。(2019、2020 年度は設置準備、2021 年度からは授業開始) **・三菱みらい育成財団から、県立大学の新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」が高く評価され、「21 世紀型教養教育プログラム」に採択。**3 年間の助成金を獲得した。（2021～2023 年度） 今後の事業実施見込の確認 ・2021 年度に設置した**新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」について、2024 年度には全学部連携型授業を 4 科目、複数学部連携型授業を 4 科目開講**し、学部 4 年間を通した教養教育カリキュラムを完成させる。 ・APU 教養特別科目**「県大教養ゼミナール」を 2023 年度に新規開講**し、新教養教育カリキュラム新設科目に重点を置いた評価を実施し、より養育効果の高い授業への改善を進める。 **【評価（案）】** これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。

の関わり方や海外発信の手法など幅広い知識について、5学部横断的に学ぶことのできる教養教育科目群である。						**【2023～2024 年度の見込】** ・3 年次以上の学生が受講する APU 教養特別科目「県大教養ゼミナール」を 2023 年度に新規開講するとともに、新教養教育カリキュラム新設科目に重点を置いた評価を実施し、より教育効果の高い授業への改善を進める。 ・2024 年度には、全学部連携型授業を 4 科目、複数学部連携型授業を 4 科目開講し、学部 4 年間を通した教養教育カリキュラムを完成させる。 ・県内自治体・企業等と連携した授業を引き続き開講するとともに、これまでの開講科目について中間評価を実施し、2024 年度開講科目の開講準備を行う。	**（指標）** 全学生対象の教養教育科目群「県大世界あいち学（仮称）」(*)を 2021 年度に新たに設置し、全学部連携型授業を１科目、複数学部連携型授業を４科目開講する。 **（指標の達成見込）** ⇒2024 年度までに全学部連携型授業４科目、複数学部連携型授業４科目を開講予定

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
4　専門教育においては、社会からの要請等を踏まえ、教育成果や、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについて不断の検証を行い、必要に応じてカリキュラム等の見直しを行う。	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	**【2019～2022 年度の実績】** ・全学の 3 ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）について、教育目標や理念、各学部のポリシーの整合性に留意しつつ、新教養教育カリキュラムを含めた本学の特色や求める学生像を中心に、高校生にもわかりやすい表現に工夫するなど、修正案の作成を進めるとともに、各学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについても、学部・学科間における構成・表現の統一を含めた見直しを進めた。 ・外国語学部においては、全学科・専攻の学生が履修する学部共通専門科目を開設した他、学部共通専門科目を基盤とする 3・4 年次専門コース「多言語社会課程」の設置やスペイン語圏専攻のスペイン語・ポルトガル語圏専攻への改編によるポルトガル語の専攻言語化を柱とする学部新教育プログラムの 2023 年度実施に向けて、準備を進めた。 ・日本文化学部においては、カリキュラムの見直し等を実施し、文字文化財研究所や看護学部の他、愛知県立芸術大学と連携した講義やシンポジウムを実施するなど、地域の文化や文化財に関わるニーズに対応した取組を行った。 ・教育福祉学部においては、貧困・ひとり親・異文化等の多様な背景に基づく生きづらさを抱えた人々を、総合的視野を持って支援できる教育と福祉の専門職養成 に向けた学部横断的教育プログラムとして「愛知地域共生教育プログラム」の 2023 年度開講準備を進めた。 ・看護学部においては、より実践的な災害対応能力の育成を目的とした「災害看護学」及び「災害看護学演習」を新規開講した。また、看護実践能力の向上に向けたシミュレーション教育を推進するため、令和 3 年度大学改革推進補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業（文部科学省）」に採択され、補助金を獲得し、目的積立金と併せて、シミュレーション教育環境の整備に着手した。 ・情報科学部においては、ものづくりと情報技術を結合させた時代を拓く新しい情報システムの中核技術者養成のため、IoT やビッグデータ解析に関する授業の充実と、4 コース制の導入を含めた新カリキュラムを 2021 年度より開始し、あわせてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの評価と	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 ・全学の **3 ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）**について、教育目標や理念、各学部のポリシーの整合性に留意しつつ、**新教養教育カリキュラムを含めた本学の特色や求める学生像等を、高校生にも分かりやすい表現に工夫するなど、必要な修正**を行った。 ・外国語学部においては、学部共通専門科目の設置やスペイン語圏専攻のスペイン語・ポルトガル語圏専攻への改編、日本文化学部においては、看護学部や愛知県立芸術大学等と連携した講義等の実施、教育福祉学部においては、「愛知地域共生教育プログラム」の 2023 年度開講に向けた履修規程の改正や修了方法の決定、看護学部においては、「災害看護学」や「災害看護学演習」の新規開講及び文部科学省の補助金を獲得してシミュレーション教育環境の整備への着手、情報科学部においては 4 コース制の導入を含めた新カリキュラムの実施等を行った。 今後の事業実施見込の確認 ・**外国語学部**においては、学部共通科目の開設及び多言語社会課程の設置を柱とする**新教育プログラムの 2023 年度入学者からの実施**、**日本文化学部**においては、日本から視野を広げ、**世界へ発信する新カリキュラムを 2024 年度より実施**、**教育福祉学部**においては、教育と福祉の専門職養成に向けた**「愛知地域共生教育プログラム」の実施**、**看護学部**においては、**シミュレーション教育環境を活用した演習**（看護生活支援演習、看護学統合演習等）**の実施**、**情報科学部**においては、**企業連携型 PBL** や**長期インターンシップ等の体制の整備**等を行うほか、新カリキュラムの評価・改善を進める。 **【評価（案）】** 　これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。

						見直しに取り組んだ。 ・学生の学びの蓄積・可視化による利便性の向上と、教職員の指導、運営業務の効率化を目的としたｅポートフォリオシステムの導入を検討し、2023 年度より教職課程において先行的に導入することを決定した。 **【2023～2024 年度の見込】** ・2022 年度に策定された新しい 3 ポリシーと、学部・学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラムの整合性について引き続き点検を行い、必要に応じて見直し・修正を行う。 ・外国語学部においては、学部共通科目の開設、多言語社会課程の設置、スペイン語・ポルトガル語専攻によるポルトガル語の専攻言語化を柱とする新教育プログラムを、2023 年度入学者より実施する。また、多言語社会課程は 3・4 年次対象のため、2024 年度までは、2023 年度以降の入学者を対象とするガイダンスや課程履修希望者確認などの準備を行う。 ・日本文化学部においては、引き続き「災害・文化・くらしの特別研究」を開講するとともに、学部共通科目を含めたカリキュラム・ポリシーや授業内容の見直しを行い、日本から視野を広げ、世界へ発信する新カリキュラムを 2024 年度より実施し、その点検、改善を進める。 ・教育福祉学部においては、貧困・ひとり親・異文化等の多様な背景に基づく生きづらさを抱えた人々を、総合的視野を持って支援できる、教育と福祉の専門職養成に向けた「愛知地域共生教育プログラム」を実施する。あわせて、新プログラムを含めた学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの点検を行うとともに、教育研究成果をパンフレット等にまとめて発信する。 ・看護学部においては、2022 年度の中間評価を受けて検討した講義・演習内容を基に、「災害看護学」ならびに「災害看護学演習」を継続して開講する。また、看護実践能力の向上に向けて、シミュレーション教育環境を活用した演習（看護生活支援演習、看護学統合演習等）、学内実習を実施する他、教育プログラムの評価を実施する。 ・情報科学部においては、4 コース制への改編に伴い改定した新カリキュラムでの教育体制について、内部質保証に関わるデータの収集・整理を進める。また、新たに導入した企業連携型 PBL、長期インターンシップに必要となる実施体制の調整・整備を行う他、新カリキュラムの評価と改善を進める。 ・教職課程においてｅポートフォリオシステムを導入した教育を開始するとともに、全学への導入に向けた議論を進める。	

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
5　大学院教育においては、グローバル化や科学技術の高度化・複雑化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴う様々な課題を解決できる高度専門職業人･研究者等を育成するため、高度で実践的な教育を推進するとともに、カリキュラム等の検証、見直しを行う。	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	**【2019～2022 年度の実績】** ・国際文化研究科においては、医療、司法、教育、行政、福祉等の領域における外国籍住民等への支援について言語面から学ぶ「コミュニティ通訳学コース」を 2022 年度に新設し、「医療分野ポルトガル語スペイン語講座」の取組成果を踏まえ、愛知県を中心とする地域社会のニーズに応える教育研究環境の拡充を図った。 ・人間発達学研究科においては、生涯発達研究所や自治体・教育委員会との連携を含めたカリキュラムの見直しを進め、文化の多様性を理解した教育・福祉分野の高度専門職業人及び研究者養成のための教育を推進した。また、修了生 21 名が大学・短期大学の専任教員として就職した。 ・看護学研究科においては、保健師養成課程として「公衆衛生看護実践コース」を 2021 年度に開設し、複雑多様化する地域の保健ニーズに対応する高度実践力を備えたリーダーの育成を行った。 ・情報科学研究科においては、単位認定を伴う長期インターンシップ科目を新たに導入し、授業科目としての履修制度及び継続的実施を可能とするための企業や団体との連携体制の構築を進めた。 **【2023～2024 年度の見込】** ・国際文化研究科においては、コミュニティ通訳学コースでのカリキュラムと研究指導体制を確立する。また、幅広い研究分野をカバーする本研究科の特徴を活かしながら、質の高い学生の確保のため、内規等の整備により入試判定の方法を工夫する。 ・人間発達学研究科においては、文化の多様性を理解した教育・福祉分野の高度専門職業人及び研究者養成のための教育を充実させるため、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育の評価を行い、必要に応じて内容の見直しを行う。 ・看護学研究科においては、「公衆衛生看護高度実践コース」による保健師の養成を継続して実施するとともに、単位修得状況やディプロマ・ポリシーの到達度評価等をもとに評価を行い、必要に応じて教育プログラムの見直しを行う。	**事業の外形的・客観的な進捗状況の確認** ・**国際文化研究科**においては、**2022 年度にコミュニティ通訳学コースの開設**、人間発達学研究科においては、生涯発達研究所や自治体・教育委員会との連携を含めたカリキュラムの見直しの推進、**看護学研究科**においては、**2021 年度に公衆衛生看護実践コースの開設**、情報科学研究科においては、単位認定を伴う長期インターンシップ科目を導入し、企業や団体との連携体制の構築を進めるなど、高度で実践的な教育を推進するとともに、カリキュラムの見直しを行った。 **今後の事業実施見込の確認** ・**国際文化研究科**においては、**コミュニティ通訳学コースでのカリキュラムと研究指導体制の確立**、**人間発達学研究科**においては、文化の多様性を理解した教育・福祉分野の**高度専門職業人等養成のための教育の推進**、**看護学研究科**においては、**公衆衛生看護高度実践コースの継続実施**と必要に応じた教育プログラムの見直し、**情報科学研究科**においては**長期インターンシップによる学生の単位修得の継続実施**と**教育効果の評価検証**を行う。 **【評価（案）】** 　**これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。**

						・情報科学研究科においては、長期インターンシップによる学生の単位修得を促すとともに、企業・団体等との連携体制を活用した長期インターンシップを継続して実施する体制の整備と教育効果の評価検証を行う。	

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
18　学長のリーダーシップの下、学内予算の重点的な配分を行い、地域の発展に貢献する学部･研究科横断型の学際的研究や、産業界・地域社会等との連携による高度で挑戦的な研究を積極的に推進する。【重点的計画】 ＜指標＞ 学長特別教員研究費（挑戦的な研究への助成）「複数学部にまたがる共同研究を行う者（仮称）」（2019 年度新設予定）または「産学公のいずれかの連携に関わる研究を行う者（仮称）」（2020 年度新設予定）について、毎年度 1 件以上採択し、支援する。	Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	【2019～2022 年度の実績】 ・学内の競争的資金である学長特別研究費において、「学部間連携・産学公連携研究」及び「地域課題研究」による公募を新たに開始し、学長ビジョンに基づく他学部や産業界・地域社会等との連携研究や、愛知県の地域課題解決に繋がる研究を継続して推進する仕組みを整備し、毎年度 1 件以上採択した。 ・学部横断的連携や学際的研究促進のため、公開による教員研究発表会を開催した他、オンラインも活用した学内外への研究発表の場として、地域連携センターとの協働により、「愛県大アカデミックデイ」を 2021 年度より開始した。 【2023～2024 年度の見込】 ・学長特別研究費の「学部間連携・産学公連携研究」を引き続き公募し、学内の分野横断的共同研究、企業との連携、他大学や他研究機関との連携、公共機関との連携による研究を推進する。また「地域課題研究」も公募・採択し、愛知県が抱える地域課題解決につながる研究を採択し、「危機に強い安全・安心な地域づくり」や「世界とつながるグローバルネットワークづくり」をテーマとした研究を支援する。 ・地域連携センターとの協働により、教員研究発表会及びポスター発表会（愛県大アカデミックデイ）を引き続き開催し、産業界・地域社会等と連携した研究を支援する。また、学長特別研究費制度の活性化や外部資金獲得の取組とも連動させるべく、より効果的な企画のあり方について検討する。	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 ・**学長特別研究費**において、2019 年度に**「複数学部にまたがる共同研究への助成」**、2020 年度に**「学部間連携・産学公連携研究」**、2021 年度に**「地域課題研究」**を新たに公募開始し、**学長ビジョンに基づく他学部や産業界・地域社会等との連携研究**や、**愛知県の地域課題解決に繋がる研究を継続して推進する仕組み**を整備し、毎年度 1 件以上採択した。 ・学部横断的連携や学際的研究促進のため、公開による教員研究発表会を開催したほか、学内外への研究発表の場として、地域連携センターと協働して「愛知県大アカデミックデイ」を 2021 年度より開催した。 今後の事業実施見込の確認 ・**学長特別研究費の「学部間連携・産学公連携研究」を引き続き公募**し、学内の**分野横断的共同研究、企業との連携、他大学や他研究機関との連携、公共機関との連携による研究を推進**する。また**「地域課題研究」も公募・採択**し、愛知県が抱える地域課題解決につながる研究を採択し、**「危機に強い安全・安心な地域づくり」や「世界とつながるグローバルネットワークづくり」をテーマとした研究を支援**する。 ・産業界・地域社会等と連携した研究を支援していくため、愛県大アカデミックデイ等の発表会を引き続き実施するほか、外部資金獲得を強化等に繋がるような効果的な企画のあり方について検討する。 【評価（案）】 これにより、<u>自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。</u> （指標） 学長特別教員研究費（挑戦的な研究への助成）「複数学部にまたがる共同研究を行う者（仮称）」（2019 年度新設予定）または「産学公のいずれかの連携に関わる研究を行う者（仮称）」（2020 年度新設予定）について、毎年

							度１件以上採択し、支援する。 **（指標の達成状況）** ⇒学長特別研究費「学部間連携・産学公連携研究」を引き続き実施し、「複数学部にまたがる研究」または「共同研究（他学部・産学公）」を推進する予定。

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
19　各種研究助成に関する幅広い情報共有や研究推進体制の見直し、学際的な共同研究を推進するための大型外部資金獲得への挑戦など、外部資金の獲得に向けた取組を推進する。【重点的計画】 ＜指標＞ 研究に係る外部資金の採択･受入件数を、第三期中期計画最終年度までに、第二期最終年度から 10%以上増加させる。	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	【2019～2022 年度の実績】 ・学内外との連携をより一層推進するとともに、大学全体の特色ある研究活動の推進・発信を強化するため、「研究推進局」を中心とした新たな研究推進体制を構築し、産学公連携や国際的な研究の推進や、外部資金による研究活動を基本とした運営を行う方針を定め、外部資金の獲得に向けた取組と研究成果を一元的に発信する体制を整備した。 ・これまでの研究所体制の見直しと改革案の検討を進め、学部間連携を必須要件とした新たな研究所及び研究プロジェクトチームによる活動を、2021 年 4 月より開始した。(6 研究所、1 プロジェクトチーム) 【2023～2024 年度の見込】 ・研究推進局のもとで各種研究助成や外部資金に関する情報を集約し、分野別に教員に個別周知を行うなど、積極的な外部資金の獲得に向けた取組を推進する。 ・科研費申請・採択のための支援として、学長特別研究費の「科研費採択奨励研究」を活用するとともに、外部委託による申請サポートを継続する。 ・研究推進局のもと、学際的な共同研究の推進と外部資金の獲得を目指して、研究所及びプロジェクトチームの研究成果等の一元的な発信を継続するほか、本学の研究活動への関心を高められるよう、発信方法を工夫する。	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 **・2021 年度に研究推進局を設置**し、研究推進局を中心とした新たな研究推進体制を構築し、**産学公連携や国際的な研究の推進、外部資金による研究活動を基本とした運営を実施**した。 ・これまでの研究所体制の見直しと改革案の検討を進め、学部間連携を必須要件とした**新たな研究所及び研究プロジェクトチームによる活動を、2021 年 4 月より開始した。(6 研究所、1 プロジェクトチーム)** ・ICT テクノポリス研究所 ・次世代ロボット研究所 ・生涯発達研究所 ・多文化共生研究所 ・人間の尊厳と平和のための人文社会研究所 ・″まもるよ ちいさないのち！″地域災害弱者対策研究所 ・地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト 今後の事業実施見込の確認 **・研究推進局のもと、学際的な共同研究の推進と外部資金の獲得**を目的として、研究所及びプロジェクトチームの**研究成果等の一元的な**発信を継続するほか、発信方法を工夫する。 **・科研費申請・採択のための支援として、学長特別研究費の「科研費採択奨励研究」を活用**するとともに、外部委託による申請サポートを継続して実施する。 【評価（案）】 これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。 （指標） 研究に係る外部資金の採択・受入件数を、第三期中期計画最終年度までに、第二期最終年度から 10%以上増加させる。

							⇒2022 年度までに第二期最終年度より 10.7%増加（195 件から 216 件に増加）

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
22　愛知県の関連部署との意見交換会や市町村、他大学との連携による事業等を実施するなど、地域の課題への対応に向けた取組を積極的に推進する。【重点的計画】 ＜指標＞ 愛知県の関連部署との意見交換会を毎年度１回以上開催し、県の課題を共有するとともに、県との共催事業あるいは県施策への貢献活動を毎年度１件以上実施する。	Ⅳ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	**【2019～2022 年度の実績】** ・愛知県の関連部署との意見交換会を定期的に開催して課題を共有するとともに、新たな県との共催事業や県施策への貢献活動を積極的に実施し、毎年度１件以上行った。 ・県の関連部署と締結した協定に基づく、地域貢献活動を継続して行った。 2019 年度：愛知県総合教育センター 「愛知県立大学と愛知県総合教育センターとの教育研究の連携に関する協定」 2020 年度：愛知県福祉局「認知症高齢者の災害時支援に関する愛知県と愛知県立大学との連携と協力に関する協定」 2021 年度：愛知県教育委員会「愛知県立大学と愛知県教育委員会との連携協力に関する協定書」 あいち産業振興機構「愛知県立大学と公益財団法人あいち産業振興機構との連携に関する協定書」 愛知県農業総合試験場「愛知県立大学情報科学部と愛知県農業総合試験場との研究協力に関する協定書」 2022 年度：愛知県総務局総務部市町村課地域振興室・愛知県地域づくり団体交流協議会・愛知県立大学主催で「令和４年度愛知県地域づくり活動フォーラム」　（会場・オンライン併催）を実施 愛知県福祉局と連携し、「あいちシルバーカレッジ専門コース ～社会参加活動の体験から実践へ～」で『子ども支援』をテーマとした講座を実施 公開講座「若年性認知症のある方と語ろう～届け、ヤングケアラーへの支援～」を、愛知県立大学・長久手市・社会福祉法人 百千鳥福祉会共催、愛知県後援で実施 愛知県教育委員会と、スクールソーシャルワークに関する研修について意見交換を実施 ・長久手市をはじめとした県内市町村や教育委員会等の団体、また他大学と連携し、地域課題の解決に向けた取組を積極的に実施した。 2019 年度：名古屋市中川区役所「名古屋市中川区と愛知県立大学との災害対策事業に関する協定」による保育園を拠点とした防災対策モデル事業 2020 年度：日進市提案型大学連携協働事業「多様なニーズを抱える人にとっての災害時避難の在り方に関する研究－障害のある人へのニーズ調査を通して－」	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 **・愛知県の各部局や県内市町村を対象に、「愛知県立大学との連携事業等に関するアンケート」を実施**し、その結果を元にした会議を積極的に行うことで新たな共催事業や貢献活動を創出した。 **・愛知県の関連部署との意見交換会を定期的に開催**して課題を共有するとともに、**県との共催事業や県への貢献活動を毎年度１件以上行った**。また、**県の関連部署と締結した協定に基づく、地域貢献活動を継続して行った。** **・長久手市をはじめとした県内市町村や教育委員会等の団体等と連携し、地域課題の解決に向けた取組を積極的に実施**した。 今後の事業実施見込の確認 ・愛知県の関連部署との意見交換会を開催して課題を共有し、**2022 年度までに県と締結した協定に基づく地域貢献活動**を実施する。 ・近隣市町村との連携事業や地域貢献活動について、**ウィズコロナ時代における実施方法を検討**するほか、地域課題の共有と**県内外の自治体との連携による課題解決の取組を継続**する。 **【評価（案）】** **これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。** **（指標）** 愛知県の関連部署との意見交換会を毎年度１回以上開催し、県の課題を共有するとともに、県との共催事業あるいは県施策への貢献活動を毎年度１件以上実施する。 ⇒愛知県関連部署との意見交換会を引き続き実施するとともに、計画期間中に開始した、共催事業・貢献活動を継続して実施する体制を構築

						2022 年度：知立市との連携活動として、意見交換会及び「知立市の課題を聴く会（MAPU#1）」（オンライン）を実施し、連携活動を組織的に実施するため「知立市と愛知県立大学との連携と協力に関する包括連携協定」を締結 日進市教育委員会と意見交換し、教育に関する地域の課題を共有するとともに課題解決を円滑に進めるために「愛知県立大学と日進市教育委員会と連携協力に関する協定」を締結 日進市環境課主催の「にっしん環境市民討議会 2022」、「にっしん環境リビングラボ（5 回）」に参加し「第 2 次日進市環境基本計画」の策定に協力 長久手市教育委員会とスクールソーシャルワーカー（SSW）の課題に関する意見交換会を実施し、「愛知県立大学教育福祉学部と長久手市教育委員会との『学校における困難事例をめぐる教職員とスクールソーシャルワーカー等との連携に関する共同研究』に関する協定」を締結し、1 年間に 13 回スーパーバイザーを派遣し、スクールソーシャルワーク実践を検討するとともに、教職員を対象とした研修会を実施。さらに、長久手市教育委員会と本学との教育分野における包括協定を 2023 年 3 月に締結し、教員養成における学生の学校体験活動及び学校教育支援の拡充に向けたカリキュラムの見直しを開始 愛知工業大学地域防災研究センターと連携し、学校防災シンポジウム 2022「大学と地域防災」の後援を行うとともに、「学生大防災会議 2023」を共催 **【2023～2024 年度の見込】** ・愛知県の関連部署との意見交換会を開催して課題を共有し、県との共催事業または県施策への貢献活動を実施する。また、2022 年度までに県と締結した協定に基づく地域貢献活動を継続して行う。 ・近隣市町村との連携事業や地域貢献活動について、ウィズコロナ時代における実施方法を検討するほか、地域連携センターにおいて MAPU、RmAPU を適宜実施し、地域課題の共有と県内外の自治体との連携を推進する。 ・愛知県や市町村との連携による「認知症に理解の深いまちづくり」事業の取組の一環として、ウィズコロナ時代における「長久手の認知症カフェ”喫茶オレンジ”」への学生参加を進める。 ・「愛・地球博記念公園と愛知県立大学との包括連携に関する協定」に基づく連携事業へ、継続して参加する。 ・長久手市及び他大学との連携による「長久手市大学連携基本計画：大学連携推進ビジョン 4U」に基づく取組を推進するため、長久手市大学連携調整会議への参画や、4 大学連携公開ワークショップの開催を継続して行う。	

〔愛知県立芸術大学〕

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
30　確固とした実技力と高度な芸術性をもつ世界水準の人材の育成に向け、各専攻の明快な特色に基づく実技・専門教育、アーティスト・イン・レジデンスによる国際的なアーティスト・研究者との交流など、魅力ある学部教育を推進する。 【重点的計画】 （指標） アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による特別講座等を、毎年度４件以上実施する。	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	**【2019～2022 年度の実績】** ・2021 年度より領域を超えた授業科目の連携（異分野のコラボレーション教育）を開始し、2021 年度は陶磁専攻と作曲コースが合同課題を実施した。2022 年度は、新たに芸術学専攻、メディア映像専攻の教員が加わったほか、2021 年度のコラボレーション教育の成果発表として、合同課題発表展及び合同課題発表演奏会を本学にて開催した。 ・名古屋工業大学との「アートフルキャンパス構想」の一環として、2022 年度に美術学部の学生が名工大ソーラーカー部等と共同でアート作品を制作するプロジェクトを実施した。また、音楽学部教員が、名古屋工業大学の学生を対象に音楽講座を試験的に開講し、2023 年度に本格実施予定の授業への展開につなげた。 ・文化財保存修復研究所では、研究所で受託している各事業や外部資金による研究成果を反映させた授業を毎年実施するとともに、研究成果を一般公開するための芸術講座を開催した。 ・アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による特別講座等を毎年度実施した。2022 年度のアーティスト・イン・レジデンス事業では、1 名のアーティストの海外からの招聘について、新型コロナウイルス感染拡大の影響で急きょ中止せざるを得なかったため、新たな取組として、アーティストが本学滞在期間中に制作予定であった作品を、本人からの英文による遠隔指示によって、本学の学生たちが代理で制作する「リモート・アーティストインレジデンス（AIR）・プロジェクト」を新たに実施した。 （アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員事業実施件数 ・2019 年度 8 件（アーティスト・イン・レジデンス 5 件、外国人客員教員事業 3 件） ・2020 年度 2 件（アーティスト・イン・レジデンス 0 件、外国人客員教員事業 2 件） ・2021 年度 6 件（アーティスト・イン・レジデンス 2 件、外国人客員教員事業 4 件） ・2022 年度 7 件（アーティスト・イン・レジデンス 3 件、外国人客員教員事業 4 件））	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 ・領域を超えた授業科目の連携として、**芸術分野と音楽分野の合同課題を実施**したほか、**名古屋工業大学との「アートフルキャンパス構想」の一環として、美術学部の学生と名工大ソーラーカー部等と共同でアート作品を制作**するプロジェクト等を実施した。 ・**アーティスト・イン・レジデンス**及び**外国人客員教員による特別講座等を毎年度継続的に実施**し、2022 年度には、新型コロナウイルス感染拡大のため、新たな取組として、遠隔指示により学生が代理で制作する「リモート・アーティストインレジデンス（AIR）・プロジェクト」を実施した。 今後の事業実施見込の確認 ・**アーティスト・イン・レジデンス**及び**外国人客員教員による特別講座等を引き続き実施**するとともに、**領域を超えた授業科目の連携や、他大学との連携授業等を推進**する。 ・**美術学部**では、**文化財保存修復研究所で受託している各事業や外部資金による研究成果を反映させた授業を実施**するとともに、研究成果を一般公開するための講座を開催し、県立大学とも研究成果の共有を行う。 ・**音楽学部**では、各専攻における学部教育の拡充のための取組として、**新カリキュラムの 2025 年度開始に向けた「カリキュラム委員会」を立ち上げ、カリキュラムの検討**を進める。**「国際室内楽フェスティバル」**については、財政難の課題を鑑み、かつ新規に始動する「地形劇場」の活用を盛り込んだ、音楽学部における**新たな演奏会のあり方**を具体的に**検討**する。 **【評価（案）】** **これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。**

						【2023～2024 年度の見込】 ・領域を超えた授業科目の連携、学生への研究成果発表の場の提供、基礎教育の充実等、各専攻の特色・魅力のさらなる深化・強化にむけた具体的な取組を、引き続き実施する。 ・全学における特色ある教育研究の展開に向け、非常勤講師の担当する授業のコマ数の再調整を引き続き行う。 ・美術学部では、文化財保存修復研究所で受託している各事業や外部資金による研究成果を反映させた授業を実施するとともに、研究成果を一般公開するための講座を開催し、県立大学とも研究成果の共有を行う。 ・音楽学部では、各専攻における学部教育の拡充のための取組として、新カリキュラムの 2025 年度開始に向けた「カリキュラム委員会」を立ち上げ、カリキュラムの検討を進める。「国際室内楽フェスティバル」については、財政難の課題を鑑み、かつ新規に始動する「地形劇場」の活用を盛り込んだ、音楽学部における新たな演奏会のあり方を具体的に検討する。 ・アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による特別講座等を引き続き実施する。	（指標） アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による特別講座等を、毎年度４件以上実施する。 ⇒実施件数：2019 年度８件、2020 年度２件、2021 年度６件、2022 年度７件

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
39　芸術家集団としての教員による展覧会・演奏会などの芸術活動、及び文化財保存修復研究などの特色・魅力ある世界的にも質の高い研究をより一層推進し、その成果を地域に還元するとともに国際的にも発信する。【重点的計画】	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	**【2019～2022 年度の実績】** ・毎年、教員による展覧会･演奏会などの芸術活動を積極的に推進した。特に、2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、展覧会・演奏会等の芸術活動・発信の場が激減するという状況であったが、感染対策の徹底、新たな手法による開催方法の検討を行い、美術学部では教員展の VR 公開、音楽学部ではコンサート音源の CD 制作を実施する等の工夫により、活動の継続を実現した。 ・文化財保存修復研究においては、高度な技術力を要する文化財の保存修復作業を毎年受託して実施したほか、研究成果を一般公開するための芸術講座も開催した。 **【2023～2024 年度の見込】** ・教員による展覧会・演奏会などの芸術活動をより一層充実させ、その成果を地域に還元する。 ・国内外問わず第一線で活躍するアーティストを招聘し、アーティスト･イン･レジデンス事業や国際交流事業を実施し、大学 Web サイト等で情報を発信する。	**事業の外形的・客観的な進捗状況の確認** ・2019 年度には、美術学部教員が「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究～サマルカンド紙の復興を中心に～」をテーマに、ウズベキスタン等各国の研究者らと研究報告を実施した。 ・毎年、**教員による展覧会や演奏会等の芸術活動を積極的に推進**し、新型コロナウイルス感染症の影響がある中においても、2020 年度には感染症対策を徹底し、**教員展の VR 公開やコンサート音源の CD 制作等の新たな手法により芸術活動を継続**した。 ・2021 年度には、美術学部教員を中心とするグループが障害のある人と作り上げる**日用品「See Sew」がグッドデザイン賞を受賞**した。 ・2022 年度には、**文化財保存修復研究所による芸術講座「『原爆の図』ーよみがえる想い」を**、愛知県立大学人間の尊厳と平和のための人文社会研究所の協力を得て、県立大学を主会場に、**オンライン受講を併用して開催**したほか、**弦楽器コースでは花崎教授プロデュースによる「室内楽の饗宴」シリーズを立ち上げた**。 ・2022 年度には、**展覧会・演奏会**の入場制限の緩和のほか、展覧会をオープンキャンパスや芸大祭等に合わせる等の工夫により、**コロナ禍前を上回る入館者数・観客数を実現**した。 ・**文化財保存修復研究**においては、高度な技術力を要する**文化財の保存修復作業**を**毎年受託して実施**したほか、研究成果を一般公開するための芸術講座を開催した。 **今後の事業実施見込の確認** ･教員による展覧会･演奏会などの芸術活動をより一層充実させ、その成果を地域に還元する。 ・**アーティスト・イン・レジデンス事業や国際交流事業においても、国内外問わず第一線で活躍するアーティストを招聘**し、大学 Web サイトや SNS 等で**情報を発信**する。

							【評価（案）】 これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
40　特色・魅力ある研究の推進に向け、研究の推進・支援体制の点検、環境の整備、企業等との連携強化、及び外部資金等の獲得増に取り組む。【重点的計画】 （指標） 科学研究費補助金及びその他の助成金を、毎年度 20 件以上申請する。	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	**【2019～2022 年度の実績】** ・研究推進として、科研費、その他助成金等の募集情報を適宜提供し、申請書作成、申請書提出、採択後の予算管理及び関係手続等の支援や各種相談に担当職員が随時対応し、教員の研究活動支援に取り組んだ。 ・支援体制点検と環境整備の一環として、2022 年度より申請にあたって、教員からの要望もあった外部委託の面談や申請書添削を導入し、採択に向けての支援と環境整備を行った。 ・毎年、企業や研究機関等との多様な連携、共同研究を実施した。文化財保存修復研究所の保存修復技術が高く評価されて実現した共同研究があったほか、名古屋工業大学と共創した「アートフルキャンパス構想」において、同大学と共同で様々なアートプログラムを実施する等、本学独自の特色・魅力を生かした研究を推進した。 ・愛芸アシスト基金の寄附金額の増加に向け、主催イベントでの周知や、大学広報誌（学報）への案内掲載等、様々な機会を利用して寄附を募った。 ・科学研究費補助金及びその他の助成金を、毎年度 20 件以上申請し、外部資金等の獲得増に取り組んだ。 科学研究費補助金及びその他の助成金申請件数 ・2019 年度 28 件（科学研究費 10 件、その他助成金 18 件） ・2020 年度 30 件（科学研究費 12 件、その他助成金 18 件） ・2021 年度 23 件（科学研究費 10 件、その他助成金 13 件） ・2022 年度 31 件（科学研究費 10 件、その他助成金 21 件） **【2023～2024 年度の見込】** ・研究の推進・支援体制の充実や研究活動施設の整備、科研費等間接経費の有効活用に努める。 ・特色・魅力ある研究の推進に向け、企業、研究機関など外部機関との連携、共同研究を行う。	**事業の外形的・客観的な進捗状況の確認** ・2021 年度には、名古屋造形大学と日本画専攻教員による野亨寺蔵「親鸞聖人絵伝」の保存処理及び調査研究の共同研究を実施したほか、愛知県美術館で収蔵品の中から発見された新たな作品（洋画家宮本三郎の「裸婦」）について、詳細な調査を行うための専門的知識と技術を有する本学へ同作品の調査研究・修復の依頼があり、調査・修復を実施した。 **・東京藝術大学との連携による「だれでもピアノ」事業及び県大 ICT テクノポリス研究所との連携による「音楽の感情測定プロジェクト」に病院アウトリーチプロジェクトとして関わり実施**した。 **・2022 年度には、科学研究費助成事業基盤研究Ａに採択された県立大学との連携研究「データサイエンスによる紙の道の解明」を４月より開始**した。（2026 年度まで） ・研究推進として、科研費・助成金に関する情報提供を行ったほか、申請にあたって外部委託の面談や申請書添削を導入し、採択に向けての支援と環境整備を実施した。 ・文化財修復研究所においては保存修復技術が高く評価されて共同研究を行ったほか、**名古屋工業大学と共創した「アートフルキャンパス構想」**において共同で様々なアートプログラムを実施するなど、**本学独自の特色等を生かした多様な連携や共同研究を実施**した。 **・科学研究費補助金やその他助成金**については、**毎年度 20 件以上申請**し、外部式等の獲得増に取り組んだ。 **今後の事業実施見込の確認** ・特色・魅力ある研究の推進に向け、企業、研究機関など外部機関との連携、共同研究を実施する。 **・科学研究費補助金やその他助成金について公募情報等をタイムリーに提供**し、外部資金等申請の支援を行うとともに、**愛芸アシスト基金の周知・寄附依頼を積極的に行うことで外部資金・寄附金の獲得増に努める。**

						・科研費・助成金の公募情報等をタイムリーに提供し、外部資金等申請の支援を行う。また、愛芸アシスト基金の周知・寄附依頼を積極的に行い、外部資金・寄附金の獲得増に努める。	**【評価（案）】** **これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。** **（指標）** 科学研究費補助金及びその他の助成金を、毎年度 20 件以上申請する。 ⇒申請件数：2019 年度 28 件、2020 年度 30 件、2021 年度 23 件、2022 年度 31 件

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
41　愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進し、地域文化を担う人材の育成、地域の芸術文化の発展に貢献する。また、大学と地域を共に発展させることを目指し、演奏会・展覧会等、教育研究成果の積極的な発信を行うとともに、県民が芸術に親しむ機会の創出に努める。	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	**【2019～2022 年度の実績】** ・国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2019」や「あいち 2022」をはじめとする愛知県の文化芸術振興施策と連携して、本学教員や学生、卒業生が展覧会等を開催した。また、「あいち・アールブリュット」など、愛知県の障害者芸術への取組にも毎年協力した。 ・他大学、産業界、地域社会など、様々な機関との連携に努めた。2021 年度より名古屋工業大学とともに「アートフルキャンパス構想」を共創し、芸術がもたらすキャンパスライフクオリティー向上に係る効果検証事業を開始した。更に、アートを通じて新たな連携の可能性を拡大するために、2022 年 4 月 1 日付けで包括的連携に関する協定書を締結した。2022 年度には、名古屋工業大学構内への芸術作品の設置や音楽講座の開催等、様々なプロジェクトを実施した。 **【2023～2024 年度の見込】** ・愛知県の文化芸術振興施策と連携した取組を推進する。また、「あいち・アールブリュット」など、愛知県の障害者芸術への取組に引き続き協力する。 ・自治体、他大学、産業界、地域社会などとの連携を継続して行う。 ・名古屋工業大学との連携事業（継続）として、新たな「Ｆ＋事業（Ｆ＋ＡＲＴ、Ｆ＋ＬＡＢ、Ｆ＋ＡＩＲ、Ｆ＋ＧＡＬＬＥＲＹ）」を展開し、芸術体験ワークショップ、建築・デザイン作品展などを行い、さらに成果発表を実施する。 ・あいち県民の日（あいちウィーク）との連携事業として、県内の児童、生徒を無料で秋期オーケストラ定期演奏会に招待する。（2023 年度より継続的に実施予定） ・2023 年 3 月に日進市と締結した連携協定に基づき、「音楽のまち日進しえんプロジェクト」を推進し、本学学生と日進市の児童、生徒による合同コンサート等を開催する。	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 **・国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2019」「あいち 2022」**をはじめとする愛知県の文化芸術振興施策や、**「あいち・アールブリュット」**など障害者芸術への取組に毎年**協力**した。 ・2021 年度には、**名古屋工業大学とともに「アートフルキャンパス構想」を共創**するとともに**包括的連携に関する協定書を締結し、名古屋工業大学構内への芸術作品の設置や音楽講座の開催**など様々なプロジェクトを実施した。 ・2022 年度には、中部圏のイノベーションハブとして中部経済連合会と名古屋市が創設したナゴヤイノベーターガレージと連携し、ナゴヤイノベーターガレージ賞を創設し施設内に卒業生等の作品を展示する共同事業を実施したほか、受託事業として演奏会 2 件を実施した。 ・尾張旭市から三郷駅前まちづくりデザイン検討支援事業を受託した。 今後の事業実施見込の確認 **・2021 年度より名古屋工業大学と連携し、2022 年 4 月には包括的連携に関する協定書を締結した「アートフルキャンパス構想」**について、**2023 年度以降は、新たな「Ｆ＋事業（Ｆ＋ＡＲＴ、Ｆ＋ＬＡＢ、Ｆ＋ＡＩＲ、Ｆ＋ＧＡＬＬＥＲＹ）」を展開**し、芸術体験ワークショップ、建築・デザイン作品展や成果発表の開催等により事業拡充する。 **・あいち県民の日（あいちウィーク）との連携事業として、県内の児童、生徒を無料で秋期オーケストラ定期演奏会に招待**する。（2023 年度より継続的に実施予定） **・2023 年 3 月に日進市教育委員会と連携協定を締結、連携協定事業「音楽のまち日進しえんプロジェクト」を推進**し、**本学学生と日進市の児童、生徒による合同コンサート等を開催**する。 **【評価（案）】** これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。

						・長久手市文化の家との連携事業として、2022年度から実施している「文化の家×愛知県立芸術大学　ART SHOP」について、2023年度以降も継続して出展する。	

○「業務運営の改善及び効率化に関する目標」に関する項目

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
48　県立大学・芸術大学の連携や、設置者である県との連携をさらに促進するために定期的に情報交換を行うなど、様々な連携による大学の魅力づくりを積極的に推進する。【重点的計画】 （指標） ２大学による連携事業を検討・推進するための会議を毎年２回以上開催する。	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	**【2019～2022 年度の実績】** ・2 大学連携推進会議を毎年 2 回以上開催し、両大学の連携による魅力づくりを積極的に推進した。2022 年度には、ジブリパークの開園に合わせた広告広報事業として、リニモ沿線 8 施設紹介動画制作を 2 大学の教員・学生が協力して行ったほか、県立大学長久手キャンパス南門周辺の整備事業に芸術大学の教員が協力してデザイン制作を行う等、様々な連携事業を実施した。 ・設置者である愛知県と定期的に情報交換を行い、様々な連携事業を実施した。2022 年度には、県政 150 周年記念協力団体として連携事業を 6 件実施したほか、愛知県経済産業局革新事業創造部スタートアップ推進課と連携して、フランスの高等教育機関からスタートアップやイノベーションに関する研究や活動を行っている研究者等を招聘してスタートアップ国際シンポジウムを開催した。 （２大学連携推進会議の開催回数 ・2019 年度 3 回 ・2020 年度 2 回 ・2021 年度 2 回 ・2022 年度 2 回） **【2023～2024 年度の見込】** ・両大学の特色を活かした 2 大学連携研究や、アントレプレナーシップ教育事業等の支援を行う。また、「2 大学連携推進会議」を開催してさらなる連携促進に向けた方策の検討を継続する。 ・県の施策に協力し、スタートアップの取組を推進するとともに、連携をさらに促進するために法人内外との情報交換を積極的に行う。	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 ・2019 年度に立ち上げた **2 大学連携推進会議を毎年 2 回以上開催**し、両大学の連携による魅力づくりを積極的に推進した。 ・2020 年度には、**両大学教職員を対象に「2 大学の連携に関するニーズ調査」を実施**し、結果を公開することにより、連携意識を醸成するとともに共同研究を促進した。 ・両大学の共催によるシンポジウム「地域の文化財ネットワークを考える－瀬戸・長久手・豊田エリアー」を開催した。 ・2022 年度には、**ジブリパーク開園に合わせた広告広報事業**として、**2 大学の教員・学生が協力して、リニモ沿線 8 施設紹介動画を制作、公開**した。 ・設置者である愛知県と定期的に情報交換を行い、様々な連携事業を実施した。2022 年度には、**県政 150 周年記念協力団体として連携事業を 6 件実施**したほか、**愛知県経済産業局革新事業創造部スタートアップ推進課**と連携して、**フランスの高等教育機関から**スタートアップやイノベーションに関する研究や活動を行っている**研究者等を招聘してスタートアップ国際シンポジウムや農業総合試験場等と連携した A-A-A スタートアップシンポジウム等を開催**した。 今後の事業実施見込の確認 ・引き続き、2 大学連携推進会議を開催し、さらなる連携促進に向け検討を継続するとともに、2 大学連携研究やアントレプレナーシップ教育事業等の支援を行う予定である。 ・2022 年度に実施したスタートアップシンポジウムなどの県等との連携した取組を引き続き実施予定である。 【評価（案）】 これにより、自己点検の「中期計画を上回って実施する見込みである（Ⅳ評価）」は妥当であると判断する。

							（指標） ２大学による連携事業を検討・推進するための会議を毎年２回以上開催する。 ⇒開催数：2019 年度３回、2020 年度２回、2021 年度２回、2022 年度２回

資料２

２　法人評価委員会の意見等について検討すべき項目

○「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目※（１～４５）

※「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

[愛知県立芸術大学]

中期計画	中期見込自己評価	進捗状況				第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる第三期中期目標の期間における業務の実績	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認、今後の事業実施見込の確認及び評価（案）
		2019	2020	2021	2022（自己評価）		
45　魅力ある教育、質の高い研究、地域･社会貢献活動などに関する情報を迅速に集約･共有できる学内体制を構築するとともに､大学 Web サイトなど情報発信ツールの充実を図り､タイムリーかつ効果的な広報の推進により、芸大のブランド、知名度のより一層の向上を目指す。 【重点的計画】 （指標） 大学 Web サイト･SNS のアクセス数を、第三期中期計画最終年度に 150 万件以上とする。	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	【2019～2022 年度の実績】 ・全学広報プロジェクトチームにおいて、大学の特色や魅力を発信するためのブランディングを検討し、愛知県立芸術大学広報戦略『ブランディングのための指針 2020』をまとめ、大学に関連する様々な情報の発信・広報を戦略的に行える体制を整えた。また、広報として大学 Web サイトを有効活用するため、英語版を含むサイト全体のリニューアル実施を決定し、2022 年度末に完成・公開した。 ・大学の芸術活動などの情報を集約・共有し、迅速に大学 Web サイトや公式 SNS（Facebook、Twitter）を活用してタイムリーかつ効果的な情報発信を行った。 ・本学のブランド、知名度のより一層の向上を目指し、ジブリパークの開園に合わせて、会場への経路の途中にある道路から視認できる芸大敷地に、大型看板を設置するプロジェクトを実施した。あわせて、リニモ沿線８施設紹介動画を制作し、リニモ藤が丘駅デジタルサイネージにて放映されたほか、愛知県及び長久手市の公式 Web サイト等に掲載された。また、地形劇場の観覧席整備にあたり、外部資金の獲得手法としてクラウドファンディングを活用し、目標金額を大きく上回る寄付を集めることに成功した。 大学 Web サイト・SNS のアクセス数 ※端数により内訳と合計が合わない場合がある。 ・2019 年度 109 万件 （大学 Web サイト：46 万 件、Facebook：63 万件） ・2020 年度 158 万件 （大学 Web サイト：53 万件、Facebook：48 万件、 Twitter：58 万件） ・2021 年度 162 万件 （大学 Web サイト：53 万件、Facebook：47 万件、 Twitter：61 万件）	事業の外形的・客観的な進捗状況の確認 ・愛知県立芸術大学では全学広報プロジェクトチームがブランディングを検討し、**『ブランディングのための指針 2020』をまとめる**とともに、**大学 Web サイトをリニューアルし、2022 年度末に新サイトを公開**した。 ・愛知県立芸術大学は、ブランドと知名度向上を目指し、**ジブリパーク開園に合わせて、大学敷地に大型看板を設置**するプロジェクトを実施するとともに、**リニモ沿線の 8 施設を紹介する動画を制作**し、**リニモ藤が丘駅デジタルサイネージや公式 Web サイトに掲載**した。 **・地形劇場の観覧席整備にはクラウドファンディングを活用し、目標金額を上回る寄付**を集めることに成功した。 今後の事業実施見込の確認 **・大学 Web サイト・SNS のアクセス数を、第三期中期計画最終年度に 150 万件以上**とする ・大学の芸術活動などの情報を集約・共有し、**リニューアル後の大学 Web サイトや SNS 等を活用**した**タイムリーかつ効果的な情報発信**を行うとともに、**リニューアルした大学 Web サイト**について、サイト内の**各種コンテンツの情報整理を行い、内容を充実**させる。 【評価（案）】 これにより、自己点検の「中期計画を十分に実施する見込みである（Ⅲ評価）」は妥当であると判断する。 （指標） 大学 Web サイト・SNS のアクセス数を、第三期中期計画最終年度に 150 万件以上とする。

						・2022 年度 127 万件 （大学 Web サイト：53 万件、Facebook：23 万件※、 Twitter：51 万件） ※2022 年 9 月より Facebook の仕様が変更 2022 年 4 月～2022 年 8 月：22 万件、2022 年 9 月～2023 年 3 月：0.6 万件 **【2023～2024 年度の見込】** ・大学 Web サイト・SNS のアクセス数を、第三期中期計画最終年度に 150 万件以上とする。 ・大学の芸術活動などの情報を集約・共有し、リニューアル後の大学 Web サイトや SNS 等を活用したタイムリーかつ効果的な情報発信を行う。 ・2022 年度にリニューアルした大学 Web サイトについて、サイト内の各種コンテンツの情報整理を行い、内容を充実させる。	**（指標の達成見込）** ⇒2020・2021 年度において 150 万件以上を達成、2022 年度においては未達成。

○全体評価　評価に当たっての意見、指摘等

第三期中期目標期間の４年目を終え、中期目標策定時には想定しえなかった新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、教育や研究等において、様々な業務運営の工夫を重ね、中期計画を推進してきたことは評価する。

特に、愛知県立大学では、新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による全学部連携型授業や複数学部連携授業の推進及び学部横断型・分野横断型の研究体制の整備、愛知県立芸術大学では、異分野のコラボレーション教育の実施や他大学との連携、地域貢献の取組の推進、法人運営では、多額のトップマネジメント事業費を確保したこと及び新型コロナウイルス感染症のワクチンの職域接種の早急な実施等を特に評価する。

今後、残りの２年間においても、全学部連携型授業等の推進や自治体や他大学、産業界、文化施設等との連携、地域貢献などを推進し、更なる発展を遂げられることを大いに期待する。

なお、第四期に向け、指標の設定など課題を整理するとともに、第三期までに積み上げてきた取組を更に発展させ、大学の魅力、知名度の向上に向け、更なる努力をしていただきたい。